

塩ビシート基本施工

下地の点検、調整	下地の乾燥、強度、平滑度などについてチェックする。 点検の結果、著しい不都合がある場合は、協議のうえ下地補修材「プラッター」などで下地の調整を行う。
材料の搬入、保管	材料を指定の箇所に搬入し、数量、ロットの確認を行う。 複数ロットで入荷してる場合は、施工箇所毎に材料の積み分けを行い、混合使用がないようにする。 床シートは癖がつかないよう可能なかぎり垂直に立てたじょうたいで また、接着剤は5℃以上の状態で保管する。
ケレン、清掃	下地の突起などは、確実にケレン除去し、掃除機などで下地面をよく清掃する。
割り付け	割付の方法に特別の指示がある場合は支持のデザインに従う。 それ以外の場合は、原則として材料のロスが少なく 周辺部にお極端に小さなカット物が入らないように割付する。
荒切り	所定の割付寸法より3～5cmの余裕を見て荒切りをし 床シートの長手方向は、エッジトリマーで耳落としを行う。
接着剤の塗布	荒納めを行った床シートを半折りにし、接着剤の塗布を行う。 塗布は、規定のくし目ごてを使用し、作業中くし目がすり減った場合は調整を行う。1回の塗布面積は貼り付け可能時間以内に床シート貼り終える面積とし、壁際、柱周りは中央部を張り終えた後、接着剤を塗布する。
オープンタイム	オープンタイムは、接着剤、下地の種類、温室度、通風などにより異なるが、接着剤の皮膜にベタツキが生じる状態を目安にする
貼り付け	折り返した床シートを、中央部より空気を押し出すようにしながら貼り付ける。 残る反対側も、同様に貼り付ける。
継ぎ目のカット	床シートの継ぎ目(ジョイント部)は、「落とし込み」「重ね切」「方落とし」などの方法でカットする。
壁面部のカット	壁面部のカットは次のいずれかの方法で行う。 ①「定規方式」 壁面から床シートを離し、けがき棒や巾定規などを使用してカット線を出す。 ②「コンパス方式」 壁面に床シートをもたれさせ、コンパスで、カット線を出す。 ③「当て切り方式」 壁面に床シートを押し当て、トリマーなどでカットする。

冬期の施工	貼り付け時の室温が、冬期で5°C以下に下がった場合は、ヒーターなどで採暖して、室温を20°C(湿度75%RH以下)程度に保ちながら施工する事が望ましい。
エア－抜き 圧着	継ぎ目から、床シートの施工時に巻き込んだエア－を追い出す。 平場は45kgローラーなどで、壁際などはハンドローラーを使用して、圧着可能時間内に良く圧着する。
継ぎ目の処理	床シートの継ぎ目を熱溶接する場合は、下記により行う。
熱溶接	<p>①床シート貼り付け後、接着剤が硬化してから、継ぎ目を溝切りカッター、又は電動溝切り機で溝切りを行う。</p> <p>②溝は深さを床シート厚の2/3程度とし、U字形(またはV字形)に均一な幅とする。</p> <p>③熱溶接機を用いて床シートと溶接棒を同時に熔融し、溶接完了後溶接棒の余盛部を一度荒削りし、冷却してから、仕上げ削りを行い、平滑に仕上げる。</p>
階段の貼り付け	<p>階段の施工にわ、「つきつけ施工」と「巻き上げ施工」の2種類の方法がある。</p> <p>(1)突きつけ施工 け込みを先に貼り、次に踏み込み面を貼る。 階段寸法に合わせ、床シートを精度よく裁断し、け込みは ノンスリップがのみこむように貼り付け、ハンドローラーで十分に圧着する。</p> <p>(2)巻き上げ施工 け込みと踏み面の取り合い部正しく沿い、Rローラーなどで入念に圧着し、下地面になじみよく接着させる。</p>
施工後の点検	目違い、浮き、汚れ、継ぎ目処理などの不具合の有無を点検し、不具合がある場合は、処理を行う。
施工後の点検	目違い、浮き、汚れ、継ぎ目処理などの不具合の有無を点検し、不具合がある場合は、処理を行う。
養生	施工完了後、関連業者などの土足による床面の汚染、損傷を防ぐため、土足を禁じ、歩行量の多い場所には養生シートなどで養生をしておく。